

4 ユニセフを活用した活動展開例

「総合的な学習の時間」の課題やテーマの設定、それに対する考え方については、研究会においてもさまざまな意見が出されました。

本書におきましては、それらの意見の中からユニセフの素材を活用しやすいテーマを選びました。活動の流れについては基本的にステップ1～ステップ3の3段階（知る→考える→行動する／課題設定→課題把握→表現活動／課題設定→個別追究→発展）にわけて示されています。

また、ユニセフの資料を主に使用したユニセフ学習から発展させた例や、ユニセフの資料をきっかけとして使用する例など、ひとつのかたちにとらわれずに多様な取り組みのアイデアを取り上げています。各テーマの一部分をヒントに活用したり、各ステップから別方向へ発展させたり、複数のテーマの活動を組み合わせたり、各状況に応じて自由にご活用ください。

活動展開例 培われる資質別区分表

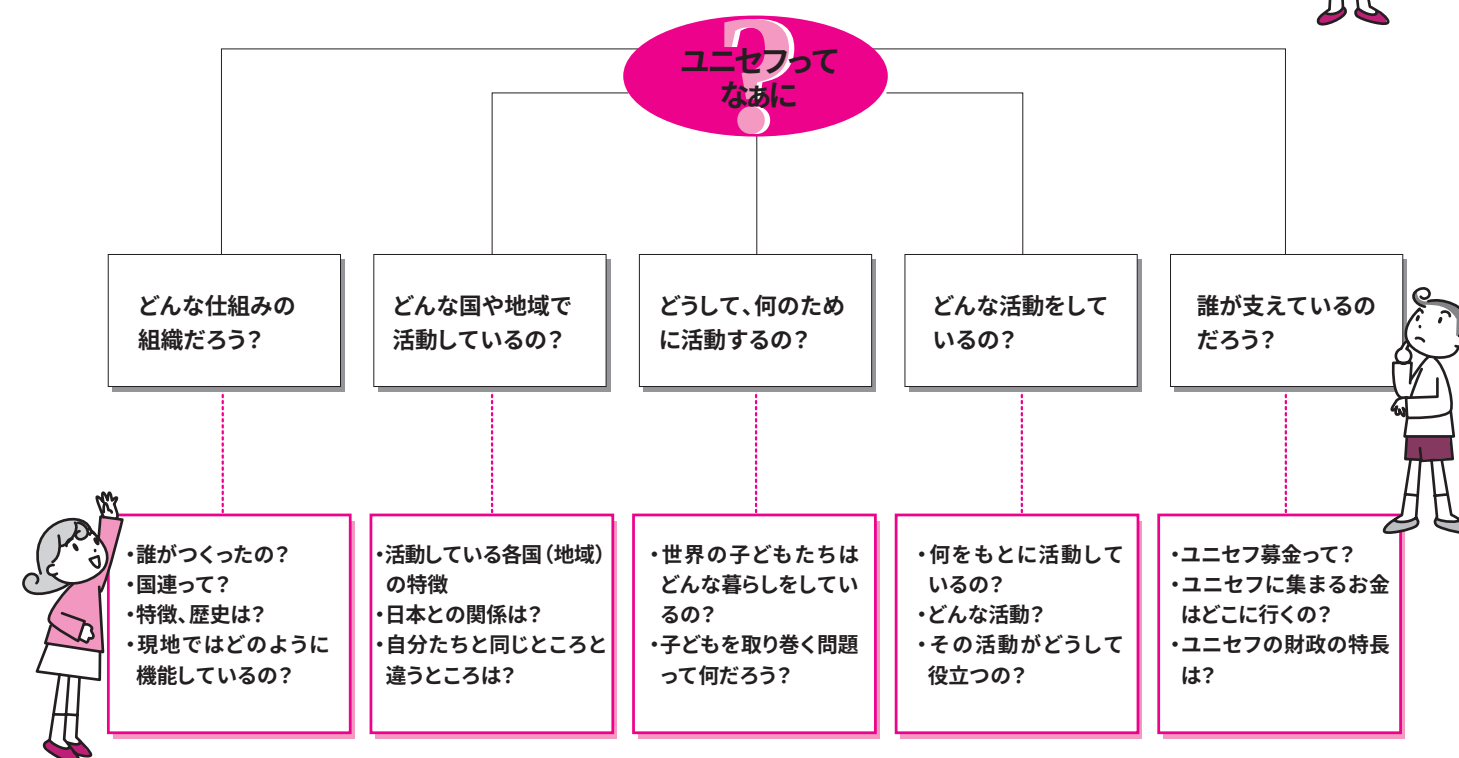
活動展開例	国際理解	環境	福祉・健康	人権	平和・共生	情報	進路・生き方
① ユニセフミュージアムをつくろう (P11)	◎				○	○	
② 人・水・くらし (P15)		◎	○				
③ 5歳を迎えられない子どもたち (子どもの権利) (P16)	○		◎	◎	○		
④ 子どもと教育 (P18)	○		◎	○			
⑤ エイズ～病気の予防と世界の現状 (P19)	○		◎				
⑥ どうしてユニセフ募金? (P20)	○		○		◎	○	
⑦ 消えゆく世界の森 (P22)	○	◎			○		
⑧ 急速に人口増加する世界 (P23)	○	○			◎		
⑨ 共に生きる世界 (P24)	○			◎	○		○
⑩ 違っていいから素晴らしい (P26)	○			○	◎		
⑪ 将来設計図 (P27)	○						◎
⑫ 写真から考える世界のできごと (P28)	○					◎	

活動展開例

① ユニセフミュージアムをつくろう

STEP-1 課題設定、問題提起

- ユニセフの資料（ビデオ、ポスター、パンフレット 他）を活用して、問題提起をしたり、各自の課題設定（把握）をしたりする。



STEP-2 調べ学習



- 各テーマについてそれぞれ調べ学習、表現活動などを行う。
- 途中経過をグループ内で発表して、学習の微調整や方向修正をする。
- 集団で同じテーマについて学習している場合は、関連テーマでの参加型アクティビティ (P12囲み記事参照) を行ってもよい。

ひとことメモ

調べ学習

それぞれの調べ学習の際には、自分の状況把握や身近なことを調べることが必要もあります。

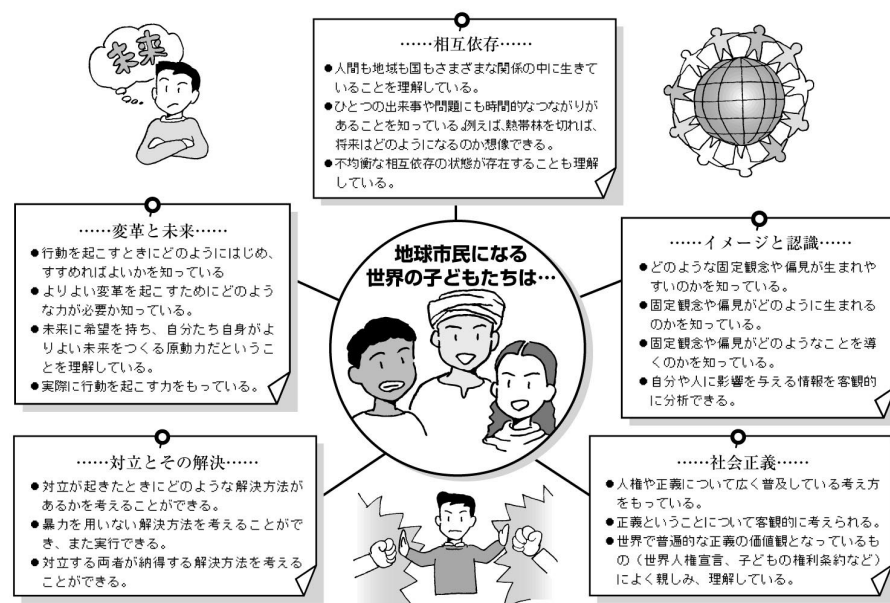
例えば、ユニセフの水と衛生に関する活動について調べるとき、自分たちが使う水はどのようにして手に入るのか、それにはどのような施設や人びとの力は必要か、どれほどのお金がかかっているのか、などを知ることにより、より課題への理解が深まりユニセフの活動の意義についてもわかりやすくなります。

ひとことメモ

ユニセフの「開発のための教育」

ユニセフが提唱している「開発のための教育」は、参加型・体験型のアクティビティなどを通じて、地球市民としての考え方や態度を養うことを目指しています。「開発のための教育」は、地球市民について下のようなコンセプトを提示しています。

これらのコンセプトに基づいたさまざまなアクティビティ例は、当協会発行資料『ユニセフの開発のための教育』に掲載されています。本冊子でもアクティビティを活用した例を多数取り上げておりますので、ぜひ一読ください。（→ 巻末資料案内参照）



活用! アクティビティ

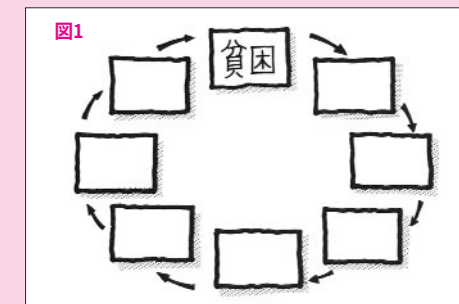
貧困はどこから

『ユニセフの開発のための教育』 P17～18)

貧困の問題を例に取りながら、問題の構造を循環図をつくって発見し、その悪循環を打破する方法を考える。子どもたちを取り巻く問題が個別に存在するのではなく、互いに複雑に関係しあっていることや、ユニセフの活動がこれらの状況を改善するようすを理解できるアクティビティ。2～5人程度のグループで。



- ①左の各カードを、因果関係でつながるように、グループで話し合いながら円形に並べる。（図1を参照）
- ②この因果関係を断ち切る方法をグループで話し合う。このとき、ユニセフがやっている活動をカードにして、どこを断ち切るための活動が考えながら円の中においてみる。
- ③気付いたことを全体で話し合う。



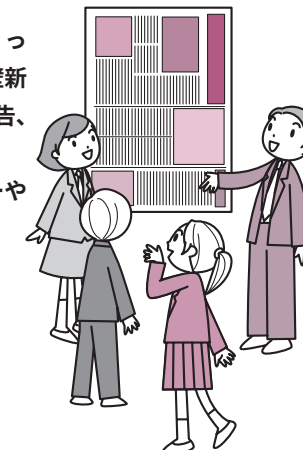
STEP-3 ユニセフミュージアムをつくる

- 調べたことを発表する場を設定する。プレゼンテーションの方法を考え、資料をまとめる。可能であれば、全校児童・生徒、保護者、地域の人びとを包含した行事を企画する。
- このあとに掲載されている個別のテーマによる活動のまとめもこうしたミュージアムで発表することができる。

発表の方法

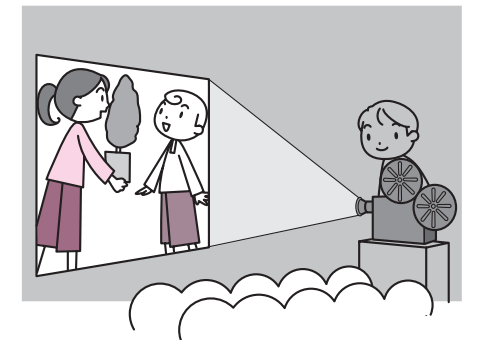
展示

- 調べたこと、つくったものの展示（壁新聞、詩、絵画、広告、旗…）
- ユニセフポスターや資料



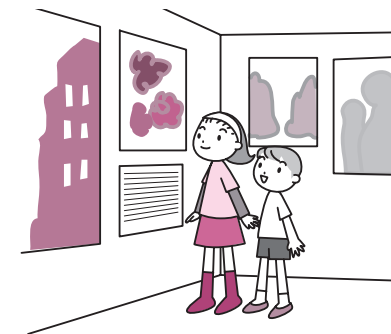
上映・上演

- つくったビデオやユニセフビデオの上映
- つくった歌や芝居などの上演



参加者とのコミュニケーション

- ミュージアムを訪れた人びととの対話
- 参加者をまじえたパネルディスカッションやポスタートークなど
- クイズ・体験ゲームコーナー



協力活動

- ユニセフ募金活動、ユニセフ支援バザー・フリーマーケットの開催など



ひとことメモ

ポスタートーク

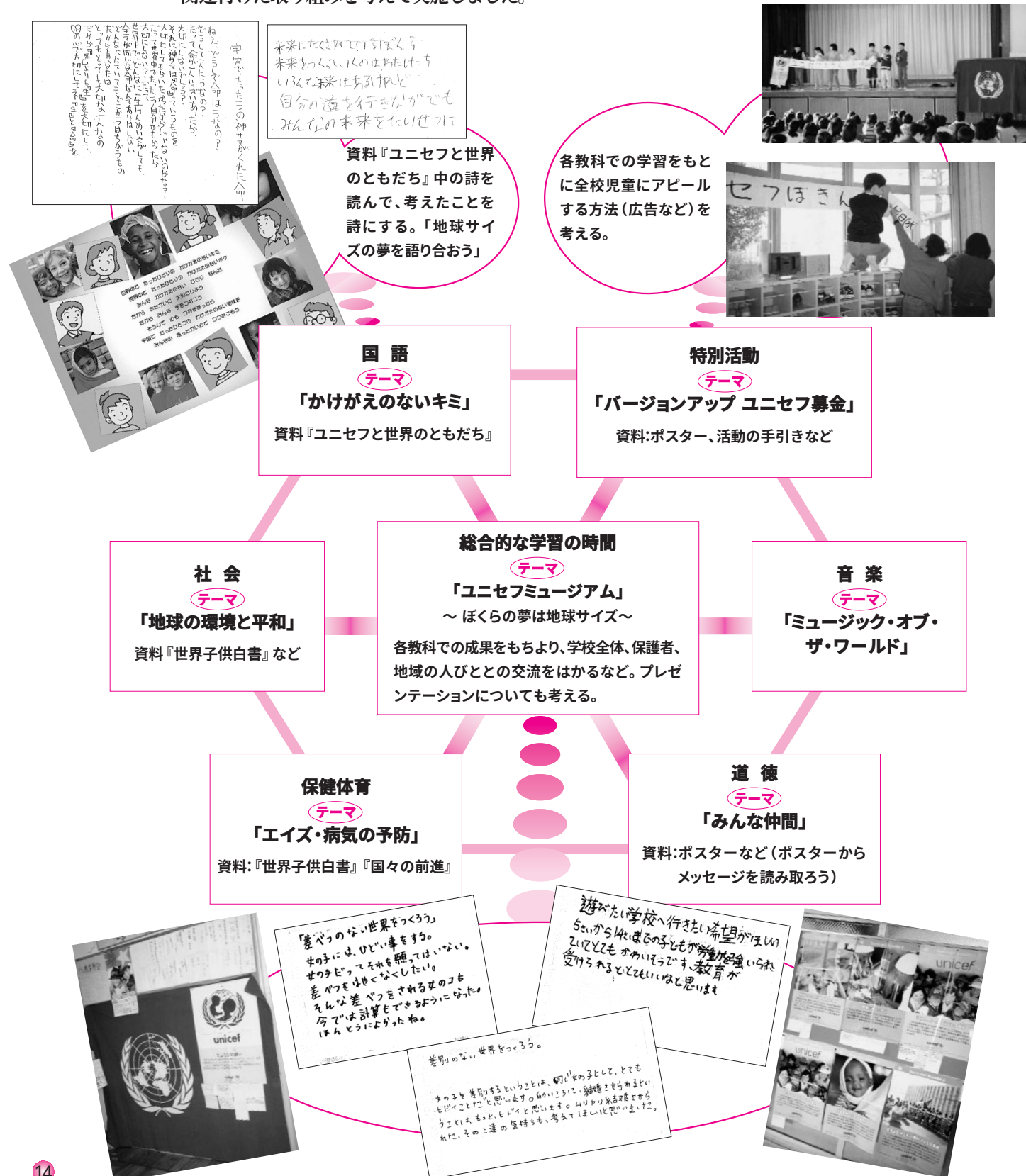
ユニセフのさまざまなポスターの下に、自由に意見や感想を書き込んでいく活動。情報を発信するとともに、いろいろな人の意見を共有できる方法です。ポスター以外の展示物でも実施できます。ユニセフが発行しているポスター資料については巻末の資料案内を参照。



4 ユニセフを活用した活動展開例

実践事例

杉並区立和泉小学校（東京）では、ユニセフをテーマに「総合的な学習の時間」と各教科を関連付けた取り組みを考えて実施しました。



活動展開例

2 人・水・くらし—ユニセフのデータから考えよう

STEP-1 問題提起：“どこにでも水道や安全な水があるだろうか？”

- 『世界子供白書』の各国の保健や水に関するデータを活用する。(安全な水を手に入れられる割合の高い国と低い国を世界地図上で色分けするなど)
- 『国々の前進』などのパンフレット資料にある水と衛生に関する記事を読む。
- ビデオを視聴する。

表 3: 保健指標

国名	5 歳未満人口の 割合 (%)	5 歳未満人口の 割合 (%)	改善された水源を 利用する人の比率 (%)			適切な衛生施設を 利用する人の比率 (%)		
			1999			1999		
			全国	都市	農村	全国	都市	農村
5 歳未満人口 割合の 順位		175						
全国		28	70	73	55	21	25	4
		60	62	80	53	37	41	35
アフガニスタン	4	13	119	76	89	61	99	99
アルバニア	91	-	175	-	-	-	-	-
アルジェリア	87	94	48	64	87	49	63	64
アンドラ	161	100	161	-	-	-	-	-
アンゴラ	2	38	110	94	97	93	97	96
アンテナグアバーブダ	133	91	68	92	97	88	85	98
アルゼンチン	123	79	17	48	72	36	58	94
アルメニア	101	84	12	49	29	55	47	88
オーストラリア	175	100	58	94	98	91	87	93
オーストリア	175	100	33	46	49	45	28	50
アゼルバイジャン	81	-	-	-	-	-	-	-
			83	90	97	82	77	94
			151	99	100	98	99	100

『世界子供白書』

『国々の前進 2000』

STEP-2 「水」を取り巻く現状についてテーマを決め、個別追究

- 国際理解の分野として……………開発途上国の抱える課題
安全な水を手に入れる苦労、水くみ労働、安全でない水を使う環境がもたらす被害など
- 環境の分野として……………自分たちの水の利用と世界の水事情
- 健康・地域学習の分野として…生きるために必要な水、上下水道、水質汚染

STEP-3 各自の発表

- 各自の研究を発表する。各発表からさらにテーマをしぼって追究活動を続ける。
- 身近な水道施設を訪問するなどして、水に関わる人びとの声を聞いてみる。
- 「水を守るための＊項目」などを策定することを目的に、世界の水や身近な水を守るためにできること、努力しなければならないこと、をまとめてみる。自分が実際にその項目を実行できたらポイントをつけるようなシートをつくってみてもよい。

活動展開例

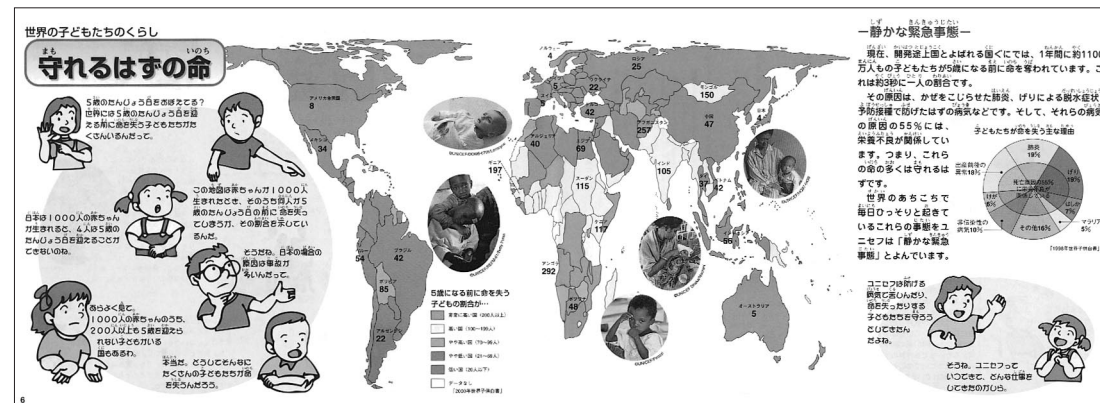
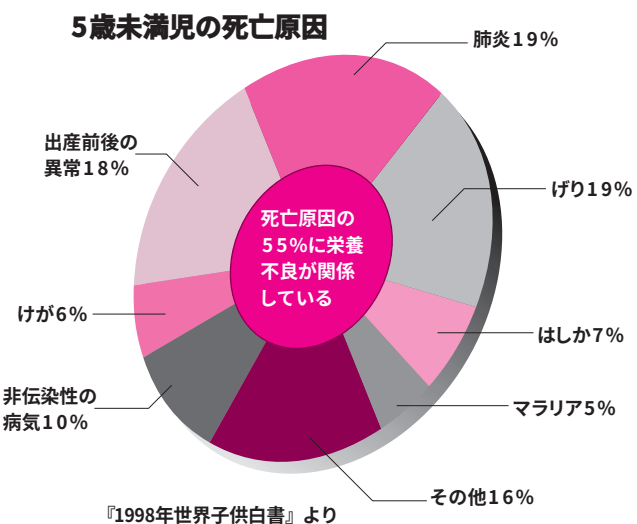
3 5歳の誕生日を迎えられない子どもたち—人間の基本的ニーズと人権・子どもの権利について考えよう

STEP-1 問題提起：“5歳の誕生日を覚えていますか？どのように大きくなってきましたか？”

- 現在、3秒にひとりの割合で、5歳を迎える前の子どもたちが亡くなっている事実を知らせる。（ユニセフのビデオや資料を使用）
- 『世界子供白書』のデータをもとに、世界地図の白地図を用い、5歳未満児の死亡率の度合いに応じて各国を色分けした地図を作成し、気付いたことを話し合う。割合の高い国と低い国をそれぞれサンプリングして各国の状況や特徴についてまとめる。

STEP-2 人間の基本的ニーズとは…？

- 子どもたちが亡くなる原因について調べる。
- 自分たちはどのようにして健やかに成長してこられたのかを振り返り、表を作成する。その中から、子どもが生まれてから健やかに成長するために必要なものを選び出し、全体でまとめてみる。（人間の基本的ニーズについて導入）
- 実際にこれらの基本的ニーズが満たされなかった場合のことを考えたり、現在基本的ニーズが満たされていない子どもたちの状況について調べたりしてみる。
- 子どもたちの命や健やかな成長を守ろうとしているユニセフの活動を調べ、その活動がどのような意義を持つのかまとめてみる。



STEP-3 「子どもの権利条約」に照らしあわせてみよう

- STEP-2で挙げた基本的ニーズについて、法律で定めたものがないかどうか調べてみる。特に「子どもの権利条約」をもとに、自分たちが選び出した基本的ニーズについて触れている条文がないか調べてみる。
- その他の「子どもの権利条約」の条文が提示しているものについて考える。
- 活動全体を振り返って、自分たちに必要なものや権利、それに伴う責任などについてよく考えたり話し合ったりしながら、自分たちの状況に合わせた「〇〇学校版 子どもの権利条約」をつくってみる。
- 子どもの基本的ニーズを満たし、「子どもの権利」を守るためにどのような活動が重要か、自分たちにもできる活動があるかどうか考えて、実施する。

ひとことメモ

「子どもの権利条約」

すでに191の国と地域が締結しているこの条約は、人権や社会正義に対する普遍的な価値観を学べる貴重な教材です。「子どもの権利条約」を使えば、多様な活動が可能です。『ユニセフの開発のための教育』や『わたしの権利みんなの権利』にも「子どもの権利条約」を活用したアクティビティが掲載されています。（P32 資料ページ参照）

世界の子どもたちの状況について考えるときにも、彼らはどのような権利が守られていないのか、どのような権利を守れば健やかに成長していくことができるのか、など「子どもの権利条約」は確実な視点、考え方の基準を提供してくれます。

また、「ほしいもの」と「必要なもの」とを選び出しながら、生きていくために「必要なもの」が権利であることを認識させるアクティビティや、各権利に対してどのような責任が伴うかを考えさせるアクティビティなど、発達段階に応じたアクティビティを工夫することによって、身近なものとして活用することができます。

ひとことメモ

統計活用の可能性

ユニセフが毎年発行している『世界子供白書』には、世界各国の5歳未満児の死亡率、成人の識字率、小学校就学率、5歳未満の栄養不良児の比率、安全な水／衛生施設を利用できる人の比率、人口、出生率、その他の経済指標など、さまざまな統計が出ています。これらをうまく利用すれば、さまざまな世界のようすが見えてきます。

たとえば、いくつかの指標を選んで、その比率に応じて色分けした世界地図を作成してみると、どの地域がどのような課題を抱えていることが多いかがわかります。アジア地域などに限って、いくつかの指標を視覚的にわかるように書き込んで比較してみる、いくつかの指標を選んで相関図やグラフをつくってみる、など実際に活動を行ってみると、無機質な数字も生き生きとその姿をあらわしてくるのです。

